

第2回	横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定委員会 会議録
日時	令和2年5月15日(金) 14:00~17:00
開催場所	横浜市庁舎18階 共用会議室みなと4会議室
出席者	【選定委員】伊東委員長、林委員、平濱委員、森谷委員 【事務局】宮嶋障害施設サービス課長、黒米地域施設支援係長、 地域施設支援係職員 村本、高田、古見
欠席者	平野委員
開催形態	非公開
議題	1 磯子区面接審査(プレゼンテーション、ヒアリング) 2 神奈川区面接審査(プレゼンテーション、ヒアリング)
決定事項	なし
議事	<p>1 開会(事務局) 選定委員5名中4名が出席。過半数を超えているため、本委員会は成立。</p> <p>2 本日の流れの説明(事務局) 資料2の委員会概要をもとに説明。前回説明資料との変更点について、「4面接審査の流れ」の中で、応募団体プレゼンテーションと応募団体ヒアリングの間にヒアリング項目の決定の時間を新設した点を説明。「4面接審査の流れ」のとおり、磯子区、神奈川区の順で、2区の面接審査を行う。 各区の面接審査後に、団体ごとに採点を行い、最終回にて採点結果の確定を行う。</p> <p>3 磯子区生活支援センター応募団体による面接審査 (1) 応募書類の確認 事務局より、下記について説明及び報告を行った。 ・応募団体 横浜市総合保健医療財団 ・財務状況 配布の財務分析結果の確認を依頼 ・市税納付状況 未納なし ・暴力団関係照会結果 該当者なし</p> <p>(2) 応募団体プレゼンテーション及び面接審査 団体から、団体の概要、事業計画等について説明。その後、応募団体と委員の間でヒアリング(質疑応答)を実施。 <主な質疑応答> (委員) 障害者の虐待や権利擁護に関し、どのような取組をされているか。</p>

(団体) 毎年、団体の中で、人権研修を行い、その中で、支援センターの職員一人一人が意識しながら取り組んでいる。特に虐待については、区役所、基幹相談支援センター等と連携しながら、対応している。その方の意思、人間性を尊重しながら対応している。

(委員) 事業実施方針で、「磯子区内の障害者の現状や地域情報を踏まえ」とあるが、磯子区の地域状況や現状について、どう分析されているか。

(団体) 磯子区は横浜市の中でも古い区である。支援センターの利用者の中でも、親と暮らしている人が多い。世帯の高齢化が進んでおり、障害者ご本人の支援だけではなく、高齢関係からサービスにつながっていない方についての相談が入ったりする。ご本人の支援だけではなく、他領域（介護保険、高齢のサービス）との連携が必要になってきている。

(委員) 家族支援は、ケアプラザや区役所、基幹相談支援センターが連携して行うと思うが、特に生活支援センターとして、どのような点に重点を置いて支援しているか。

(団体) 以前は家族といえば、親だけであったが、家族も多様で、ご兄弟や配偶者もあり、個別性が高いため、一概に家族支援はこうです、というようなことではない。

磯子区の家族会とも連携、協働をしている。ご家族のニーズにあった支援を心掛けている。情報が欲しいのか、今後の不安を聞いて欲しいのか、どこかに繋げて欲しいのか、多様性、個別的に対応して支援している。

4 神奈川区生活支援センター応募団体による面接審査

(1) 応募書類の確認

事務局より、下記について説明及び報告を行った。

- ・応募団体 横浜市総合保健医療財団
- ・財務状況 配布の財務分析結果の確認を依頼
- ・市税納付状況 未納なし
- ・暴力団関係照会結果 該当者なし

(2) 応募団体プレゼンテーション及び面接審査

団体から、団体の概要、事業計画等について説明。その後、応募団体と委員の間でヒアリング（質疑応答）を実施。

<主な質疑応答>

(委員) フリースペースがセーフティーネットになっているとあるが、作業所に行っていない人はセーフティーネットとしてフリースペースを使っていると思う。全市的に生活支援センターを相談業務に移行していこうとしている中で、影響はあるか。

(団体) 居場所がない当事者にとっては、敷居の低い生活支援センターの存在は大事なものと考えている。通所先も増えたのご説明したが、どこにも適応できない方もいるので、そういう方々にもきちんと対応できるように、フリースペースは確保していかなければいけない。相談に特化していこうという中で、フリースペースに職員が行きづらくなった状況もある。アウトリーチもあり、職員が声をかけてくれない、フリースペースに顔を出してくれないという声もあり、そこはバランスの問題である。相談室だけがある生活支援センターではないので、フリースペースをいかに機能させるかも大事な役割だと認識している。

(委員) 同じ法人に支援センターが3センターあり、同じ法人の生活支援センターと交流されていると思うが、ノウハウを伝える等、やりとりはされているか？

(団体) 担当者レベルで事業ごとに行っている。退院サポート事業や自立生活アシスタント事業の3センターの事業担当で、定期的に打ち合わせ、情報共有している。

(委員) 神奈川区のセンターは横浜第1号であり、これまで横浜の生活支援センターをリードしてきたが、神奈川区の支援センターがこの次の10年でどこに向かうのか。

(団体) 20年前にスタートして、社会資源が少なく、センターと利用者の2者関係が大きかった。さまざまな事業所ができてきて、連携を図れるようになってきた。それをさらに不動産屋、民生委員にも広げ、地域でその方を認識していくというような共生社会の実現を目指すべきだと思う。障害がある方も地域で受け入れられるような地域づくりをますます展開していく必要があると考えている。生活支援センターという1施設で抱えないということが大事である。

5 その他（事務連絡）

第1回委員会議事録の確定について、事務局より説明。

資料 ・ 特記事項	<p>1 資料</p> <p>資料1 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会 委員名簿</p> <p>資料2 横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定評価委員会 の概要について</p> <p>2 特記事項</p> <p>委員会の議事録は、議事の要旨を横浜市ホームページに掲載する。</p>
-----------------	--